

令和 8 年度 部活動地域展開に関するアンケート結果と考察（小学校 6 年生）

実施日 令和 8 年 7 月

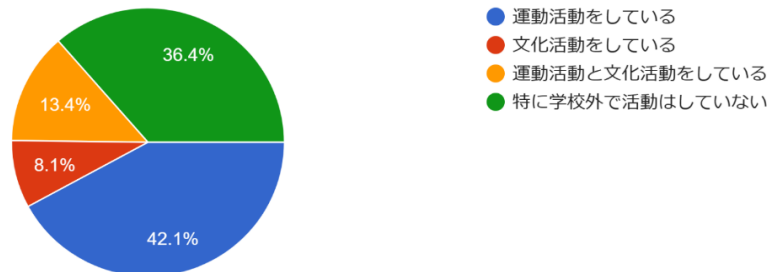
【市内小学校 6 年生全児童：850 人 回答数：725 人 回答率：85.29%】

1. 小学 6 年生の放課後や休日の、学校外での運動活動や文化活動の実施状況

Q. あなたは今、放課後や休日に、学校外で運動活動や文化活動をしていますか？

※学習塾は除きます

〈回答 725 件〉

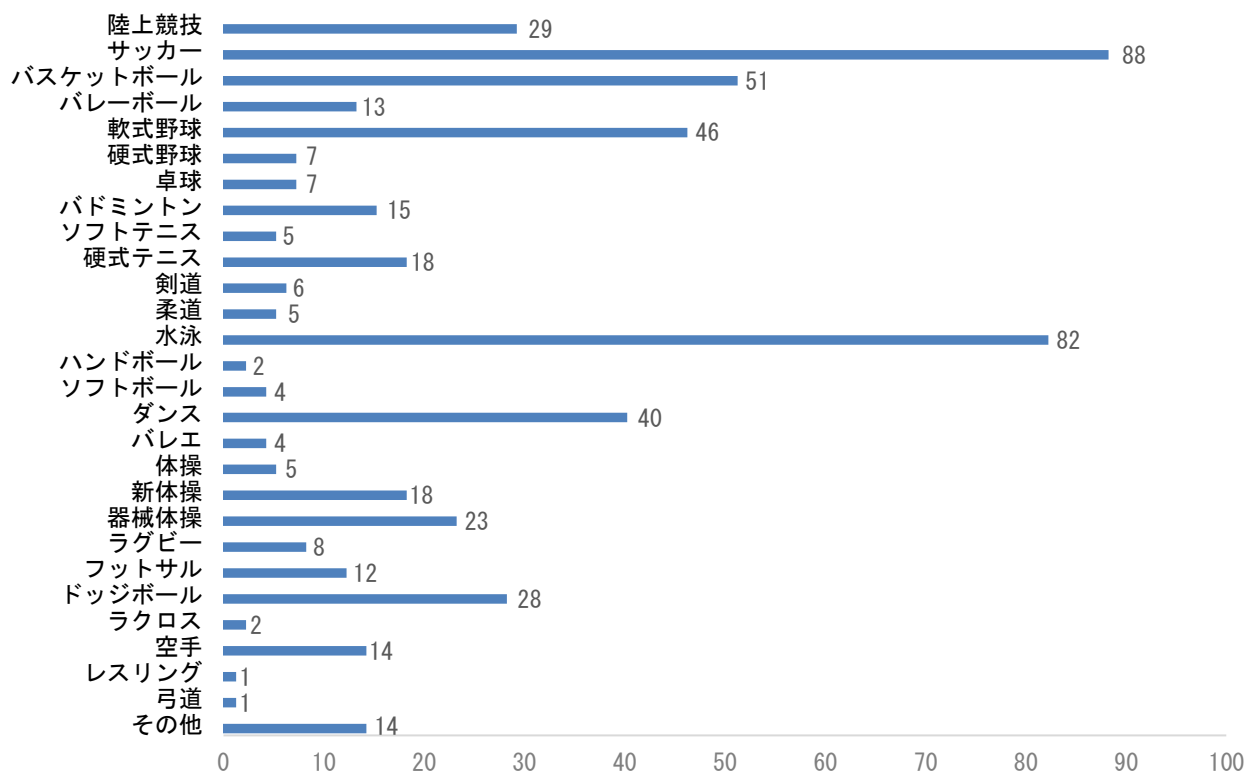


放課後や休日に、学校外で運動活動や文化活動をしている割合は、461 人（63.6%）で、内訳は運動部活動 305 人（42.1%）、文化活動 59 人（8.1%）で、運動部活動と文化活動の両活動が 97 人（13.4%）となっている。市内の 6 割以上の児童が、小学校段階から運動活動や文化活動を行っている。

2. 小学 6 年生の学校外での運動活動の実施状況

Q. 学校外で運動活動をしている人は、どのような活動をしていますか？（複数回答可）

〈回答 461 件〉

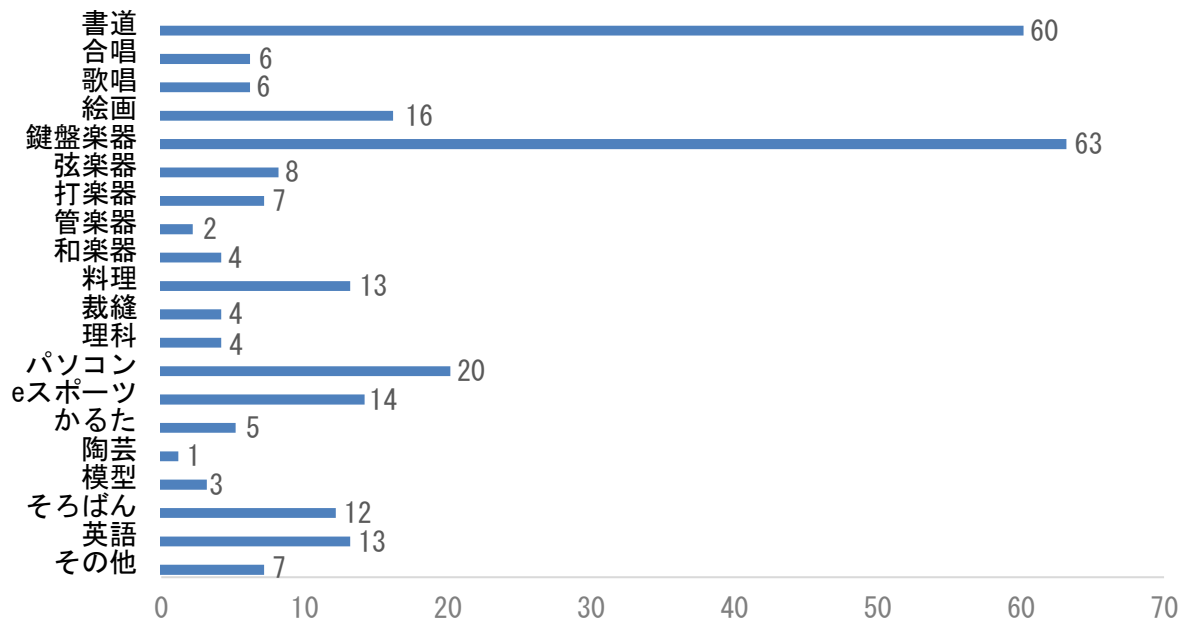


運動活動では、サッカー88人（19.1%）、バスケットボール51人（11.1%）、軟式野球46人（10.0%）と中学校部活動にある種目が上位にあがっている。一方で、水泳82人（17.8%）は割合が高いが、現状では水泳部活動は第二中学校のみであり、他の中学校では、特設水泳部として活動している。また、ダンス40人（8.7%）や硬式テニス18人（3.9%）、新体操18人（3.9%）や器械体操23人（5%）、ドッジボール28人（6.1%）と学校部活動にない種目も多くの子が活動している状況がある。また、その他として、ボクシングや合気道、フィギュアスケートなど多様な種目に取り組む児童も見られる。

3. 小学6年生の学校外での文化活動の実施状況

Q. 学校外で文化活動をしている人は、どのような活動をしていますか？（複数回答可）

〈回答 461 件〉



文化活動では、書道 60 人（13.0%）、英語 13 人（2.9%）と多くの児童が学習活動（塾は除く）をしているが、書道や英語など学習系の文化部は学校部活動にはない現状である。音楽系の活動では、各中学校に吹奏楽部、第二中学校と第五中学校にギター部があるが、鍵盤楽器（ピアノ等）63 人（13.7%）、合唱 6 人（1.3%）や歌唱 6 人（1.3%）などの活動は行っていない。また、各学校に美術部や家庭科部、第二中学校にコンピュータ部があるが、休日の活動の実施はしていない部活動が多い。

4. 中学校入学後に部活動へ入部意志のある児童の割合

Q. 中学校に入学したら部活動に入部したいと思いますか？

〈回答 725 件〉

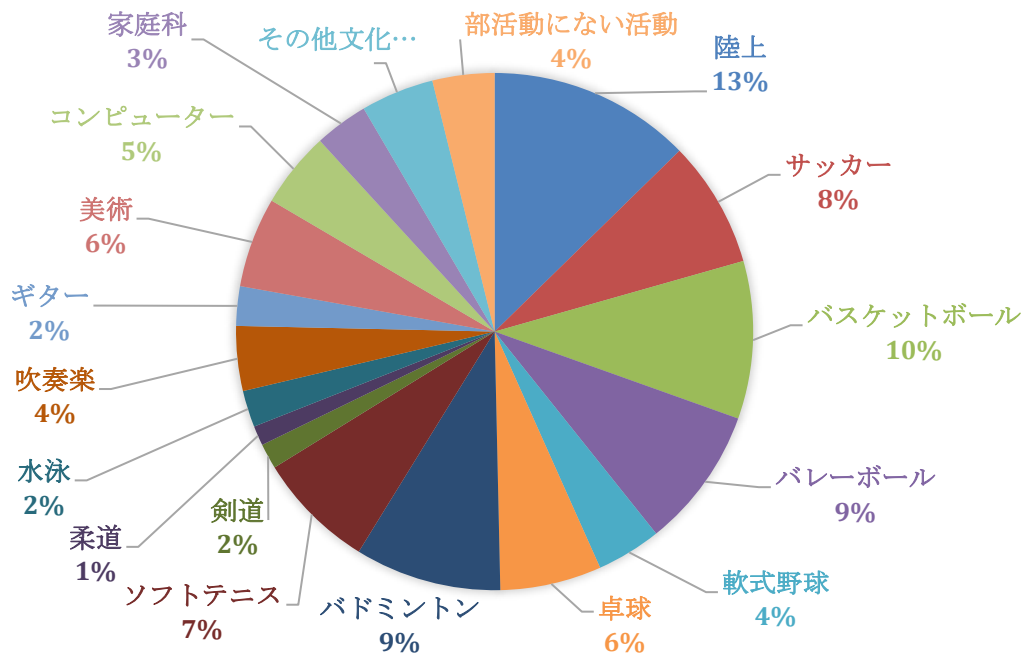


中学校の部活動に入部したい小学校6年生の児童の人数は、『入部したい』が 48%で 348 人、『希望する活動があれば入部したい』が 30.3%で 220 人となっており、合わせて 78.3%で 568 人の小学校6年生の児童が中学校の部活動に入部したい意思を持っている。『まだ決めていない』と回答した人数も 17.9%で 130 人となっているため、児童にとって中学校の部活動への期待の高さが伺える。地域クラブ活動展開後も、部活動の良さを継承しつつ、子供たちのニーズに合わせた活動とすることで、子どもたちの運動活動や文化活動を更に推進することができると思う。

5. 入部を希望する部活動の割合

Q. どの部活動に入りたいですか？

〈回答 568 件〉

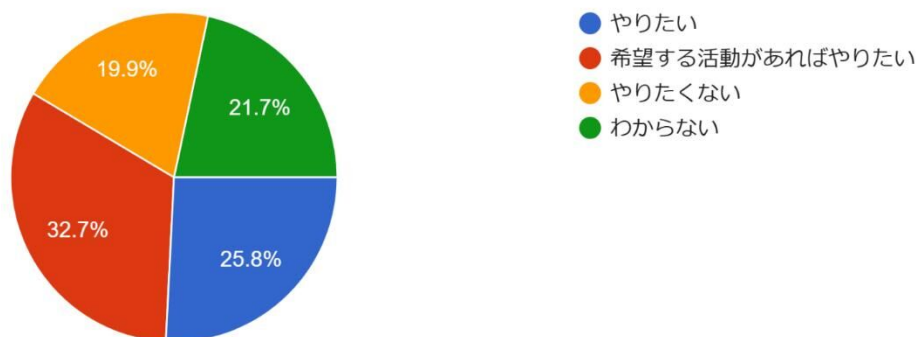


前項目で『入部したい』または『希望する活動があれば入部したい』と回答した児童において、ニーズは様々であり、多くの種目があがっている。一定の種目に偏るのではなく、現在学校部活動に存在する部活動それぞれに需要があるため、地域クラブ活動展開後も、中学校部活動にある種目を継続していく必要がある。また、現在の中学校部活動にない種目を希望する児童も一定数みられるため、地域クラブ活動展開後には、学校部活動にない新たな種目の創設も検討していきたい。

6. 地域クラブ活動展開後も入会を希望する児童の割合

Q. 今後、休日の部活動がなくなった場合に、運動活動や文化活動を休日にやりたいと思いますか？

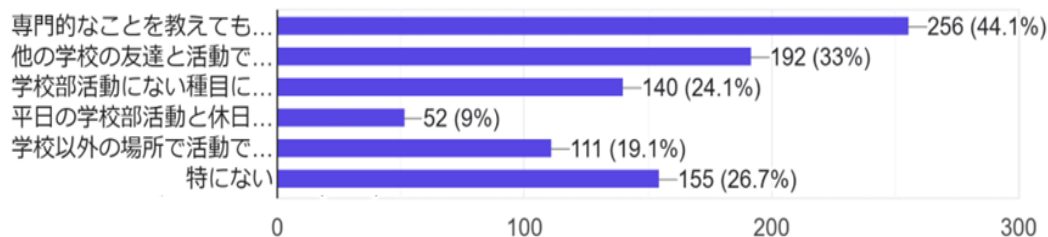
〈回答 725 件〉



休日の部活動がなくなった場合にも、運動活動や文化活動を『やりたいと思う児童は 187 人（25.8%）』『希望する活動があればやりたいと思う児童 237 人（32.7%）』となっており、地域クラブ活動に関心を持つ児童は合わせて 424 人（58.5%）となる。また、『わからないと答えた児童 157 人（21.7%）』で一定多数いる。学校部活動が地域クラブ活動へと展開しても、休日も運動活動や文化活動に取り組みたいと思う子供たちの活動が制限されずに、それぞれの子供のニーズにあった活動環境を整えていく必要があると考える。

7. 地域クラブ活動へと展開することで期待すること（環境や内容等）

Q. 休日に部活動ではない、運動クラブ活動や文化クラブ活動に参加するときに、どのような環境や内容だと嬉しいですか？（複数回答可）〈回答 581 件〉



学校部活動が地域クラブ活動へと展開することで、児童が環境や内容面で期待することとして、『専門的なことを教えてもらえる』が 256 人（44.1%）となっており、専門性の高い指導者から教えてもらえる環境に期待している。また、『他の学校の友達と活動できる』が 192 人（33%）で、通学する学校を超えた友達と活動できることや、新たな交友関係が生まれることに期待している。さらに『学校部活動にない種目に参加できる』が 140 人（24.1%）となっており、これまでの学校部活動とは異なる地域クラブ活動への期待が伺える。

8. 休日に運動活動や文化活動をやりたい・やりたくない理由

○やりたい理由

- ・楽しそう
- ・技能が向上する
- 専門的なことを教えてもらえる
- ・運動をすることが好き
- ・好きなことができる
- ・健康に良い
- ・大会で良い結果を残したい
- ・成長できる
- ・友達と交流
- ・友達が増える
- ・集中力を高められる
- ・体力の向上
- ・近場でできる
- ・他にやることがない
- ・多くの学びがある
- ・勉強の気分転換
- ・日本の文化に触れられる
- ・色々なことをやりたい
- ・1つのことに本気で取り組みたい
- ・経験を積みたい
- ・将来につながる
- ・学校でできないことができる
- ・新しいことに挑戦できる
- ・評価があがる

●やりたくない理由

- ・疲れる
- ・休みの日が削られる
- ・自分の時間が削られる
- ・家族と出かけたい
- ・平日だけでいい
- ・面倒くさい
- ・他にやることがある
- ・暑さや寒さが厳しい
- ・好きでない
- ・他に習い事がある
- ・ゲームをしたい
- ・お金がかかる
- ・友達と遊びたい
- ・忙しい
- ・実力差がある
- ・塾がある
- ・よくわからない

休日に運動活動や文化活動をやりたい理由は、「うまくなりたい」「専門的なことを学びたい」「できることを増やしたい」など、その活動に興味・関心が高く、『スキル向上と成長』を目指す理由が多かった。また、「休日にも体を動かしたい」「体力が落ちるのが嫌」「健康にいい」など、『健康・体力維持』を期待するものや、「将来につながる」や「経験を積む」など『将来に向けた活動』となる理由も多くあがった。さらには、「友達と交流」や「友達が増える」など『交友の場』に関する理由も見られた。

一方で、やりたくない理由では、「休みたい」や「自分の時間が削られる」など『休息と自由時間の確保』や、「塾がある」や「他に習い事」があるなどの『他の優先事項』があること理由も多くあがっていた。また、「めんどくさい」や「暑さや寒さ」など、『心理的・身体的ハードル』に関する理由なども見られる。

9. 現在の部活動にないがやってみたい種目

<運動活動>

- ・ダンス（チアダンス）
- ・水泳
- ・体操（新体操）
- ・硬式テニス
- ・ドッジボール
- ・空手
- ・カヌー
- ・ラグビー
- ・フットサル
- ・アーチェリー
- ・レスリング
- ・弓道
- ・乗馬

<文化活動>

- ・ピアノ
- ・eスポーツ（ゲーム）
- ・プログラミング
- ・合唱
- ・和太鼓
- ・イラスト
- ・演劇
- ・書道
- ・華道
- ・茶道
- ・将棋

圧倒的に多くあがったのが、運動活動ではダンスと水泳、文化活動ではピアノとeスポーツであった。ダンスは、これまでの学校部活動ではなく、競技人口が高まっており人気の活動であることがわかる。水泳においても、習い事で続けている子供も多くニーズは高いが、活動場所等に課題がある。また、ドッジボールや空手なども習い事で経験している子供も多く、競技を続けたいが、学校部活動になれないなどの理由で競技をやめてしまう児童もいる。

文化活動でも、ピアノや合唱など習い事で行っていたものを続けたいと思う児童が多く、吹奏楽ではない音楽活動をやってみようという児童もいることがわかる。

10. まとめ

アンケート結果から、多くの小学校6年生の児童が現在も学校外で運動・文化活動を実施しており、中学校進学後も部活動への加入に高い意欲を持っていることが明らかになりました。休日の活動については、「やりたい」という意欲を持つ層と、「休日は休みたい」とする層で二極化しています。地域クラブ活動に求める環境としては、「専門的な知識」と「他校の友人との交流」に期待を示しています。一方で、活動への参加をためらう主な要因は「休日の休息時間の減少」や「勉強との両立」であり、部活動地域展開にあたっては、活動の質（専門性）の確保と、家庭や個人の時間とのバランスを考慮した運営が求められています。アンケート結果から、部活動の地域展開に対する小学6年生の意識を整理し、以下の3つのポイントで提示します。

1. 競技経験や指導経験のある指導者の配置

国が示すガイドラインには、地域クラブ活動において実現が期待される新たな価値の例として、適切な資質・能力を備えた指導者による良質な指導があげられています。専門的な指導が受けられることは、地域クラブ活動参加への大きな意義といえます。これまで、学校部活動では専門外の顧問が指導にあたる場合がありましたが、地域展開後は競技経験や指導実績のある指導者の配置を推進していきます。ただし、部活動地域展開は学校部活動の教育的意義を継承し、子供たちのスポーツ・文化芸術活動を継続して実施できる環境を確保していくことが主目的であるため、いわゆる外部クラブ活動とは異なる点について理解を深めていく必要があります。本市では、技能の習得のみならず、仲間との関わりや新しいことにチャレンジできる活動となるような地域クラブ活動を目指しております。

2. 柔軟な選択肢の設定

学校部活動と同様、地域クラブ活動は、あくまで子供の自主的・自発的な参加により行われる活動です。また、技能を高めたい児童や健康維持や交流を目的とした児童など、地域クラブ活動に求めることは多岐に渡るため、個々のニーズに合わせた柔軟な活動が地域クラブ活動に必要であると考えます。地域クラブ活動への展開にあたって、単に競技力を高める場だけでなく、子供同士のコミュニティ機能を維持・強化することが求められます。これまで学校部活動が担ってきた意義を継承しながらも、地域クラブ活動で生まれる新たな価値を見だし、子供たちのニーズに合わせた活動の場を提供できるよう、今後も協議を進めてまいります。

3. 「休日」としてのバランス

「休日は休みたい」又は「家庭や勉強の時間を確保したい」というニーズを持つ児童も多くいます。そのため、活動時間を過度に長くせず、あくまでも自主的な参加を促す仕組みづくりが、持続可能な地域展開には不可欠であると考えます。地域クラブ活動展開後も、これまでの学校部活動で定められていたガイドラインに沿って、活動時間や休養日の設定を教育委員会が中心となり、運営主体となる民間事業者と共に設定いたします。国のガイドラインでも、『生徒の心身の成長に配慮して健康に生活を送れるよう、週2日以上休養日を設定し、活動時間は、平日は1日2時間程度以内、休日は1日3時間程度以内とし、週当たりの活動時間は11時間程度の範囲内とすること。その上で、できるだけ短時間で合理的かつ効果的な活動となっていること』と記載があり、地域クラブ活動後も、学校部活動と同様な活動時間や休養日が設定されることとなります。本市としても、細かな内容につきまして現在協議を進めておりますので、決定次第お知らせいたします。